

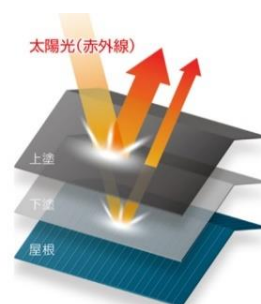
猛暑とCO₂削減対策で需要高まる「遮熱塗料」

◆ 赤外線を反射させて屋根の温度上昇を抑制する遮熱塗料

屋根や外壁に塗装することで夏の室内温度の上昇を緩和する「遮熱塗料」（高日射反射率塗料）が注目されている。日本塗料工業会によると、遮熱塗料の2021年度の全出荷量は、前年比15.6%増の1万5,953トンとなり、調査開始以来、最大の出荷量となった。22年度は前年比8.1%減の1万4千663トンと減少したが、これは企業の設備投資抑制などによる需要減が影響したものと推測されている。

遮熱塗料が伸びている背景には、気候変動による酷暑や電気料金の高騰に加えて、塗料は機器等と比べて導入や維持のコストが低いことも魅力になっている。

関西ペイントは23年7月、住宅向け建築用塗料の主力製品に遮熱塗料の「アレスダイナミックルーフ遮熱」を新たに加えて発売した。同製品は、赤外線を反射させる特殊顔料を上塗りにも下塗りにも配合することで屋根の温度上昇を抑えるとともに、素材の劣化を抑制し、屋根の長寿命化の効果もある。



赤外線を反射させる遮熱技術
出所：関西ペイントのプレスリリース

◆ 業界初の省エネ保証制度を導入する企業も

一方、遮熱塗料は省エネ効果が明確に示しにくいという課題もあり、遮熱性能の確かさを示すため、省エネ保証制度を導入する企業も出てきた。

SG化学の遮熱・断熱塗料「ダンネスト」は、遮熱機能に加えて、室内冷暖房の効果を外に逃がさない断熱機能も併せ持つ。これによって冬季の断熱効果も高まり、年間の消費電力は平均27%削減できることを実証した。

22年12月からは、塗料業界初の省エネ保証制度をスタートさせ、ダンネスト導入後、空調エネルギー削減量が10%未満の場合、施工時に使用したダンネストの材料費返金を保証している。同社は、今後さらに商品力を高め「塗る断熱材」として国内だけでなく、アジア圏を中心に海外へも環境商材として進出する計画だ。

遮熱塗料は、エアコンなどの消費電力量を削減できるなど省エネ効果が期待されることから、脱炭素化につながる環境対応型塗料としても、今後さらに注目が高まると思われる。

【秋元真理子】